

職場から

農協だより

一、建物竣工落成
八月四日米資多数を迎え落成式を挙行。役員一同心気一転、農協発展のため益々努力する覚悟を新たに示した。

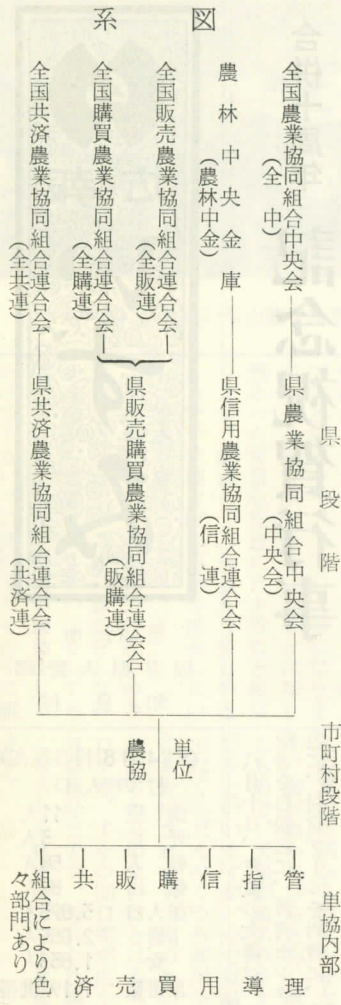
二、自動車損害賠償責任共済事業開始
七月二十五日臨時総会の決議により八月一日より開始した。
十月一日以降は原動機付自転車以上の車は自賠責共済又は保険に加入しなければ車を運転することができない。

い。それまでは猶予期間ですが。事故を起した場合は道路交通法による賠償責任を負わなければならないので、なるべく早くお加入をおすすめします。
なお任意加入の自賠責（対人対物車輻塔乗者）もやっていますので農協窓口へどうぞお越し下さい。

三、共済特別推進
八月八日より十日まで特別推進期間として、県共済連より五名の応援のもとに役員、農家組合長一丸となって推進に当り、約七六九〇万円の予約を達成し、保有予約を含め二億六八七九万円となり数年前の二十倍以上となった。益々ご利用下さるようお願い上げます。（図表一）

表 高保有共済

| 区分 | 36年度 | 37年度 | 38年度 | 39年度 | 40年度 | 41年度 |
|--------------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 全国 | 18,000億 | 17,000億 | 21,000億 | 26,500億 | 36,000億 | 47,500億 |
| 全国保 | 11,140億 | 10,540億 | 13,570億 | 17,540億 | 23,030億 | 30,000億 |
| 県一戸平均保有高 | 236万 | 233万 | 293万 | 369万 | 499万 | 699万 |
| 下穴馬農協一戸平均保有高 | 34万 | 33万 | 43万 | 57万 | 77万 | 107万 |
| 県一位組合一戸平均保有高 | 47万 | 45万 | 59万 | 79万 | 109万 | 149万 |
| 県一位組合一戸平均保有高 | 210万 | 150万 | 160万 | 192万 | 240万 | 300万 |



(写真) おごそかに竣工落成式

「系図」でしめしますと（図表二）となつていますが、単位農協との連絡指導の面で農民としては、統一した組織を確立するよう法律改正を要望しつつあります。

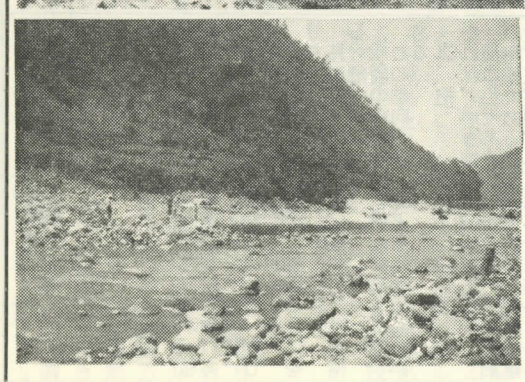
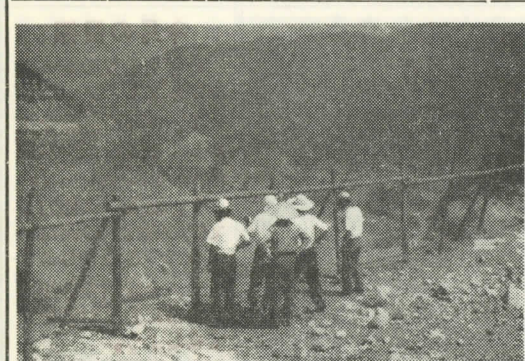
白石博士一行

ダム湖、水産開発に來村

八月五日、六日、福井県水産課、奥三、発電用ダム湖は、造られる目的が越魚協、村当局三者協同のもとに、日本唯一の人造湖淡水魚の権威者、白石博士ならびに県水産課技師、水産試験場長及び同所技師を迎え、「ダム貯水を利用して適水魚族の繁殖をいかにすべきか」の第一段階として、工事完成前に処理しておくべき問題点に焦点をおき調査を行った。

二日間にわたり九頭竜水系、石徹白水系の各ダムについても電発関係者と共に検討されたが、調査直後、決定的結論を出せるほど魚族の繁殖は容易なものではないが、現時点でいえる事は、一、魚獲場は貯水前に必要処置及び施設を講じておくよう。
二、養殖すべき魚種の放流順序を誤らぬこと。

三、発電用ダム湖は、造られる目的が魚族の繁殖でないから、これを異目的に使用するには余程の人的努力を要することを予定しておくよう。
四、自然魚餌（フランクソンの類）の流失を防止する方途を樹てること。
五、稚魚を育成して収益を挙げる方法も考慮しておくよう。
六、魚族繁殖の危機は、貯水後五年目位である。
七、両水系に出来るダム湖のすべてが魚族の養殖に利用できるとは考えられない。
八、県試験場に十分な資料を提供し助言されたことは忠実に実行し研究的に進めて行くよう。
など主たる要点であった。（写真は一行の調査）



○ 人衆ければ天に勝つ

火災予防

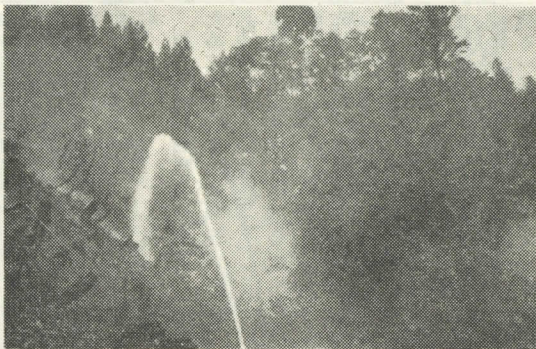
(一)

出火の大半が一般家庭からであることにかんがみ家庭を中心とした火災予防思想の普及に御協力願います。

一、危険行為の防止

- ① 燃焼器具等の安全な取扱いの厳行
 - (イ) 石油ストーブ石油コンロ、ガスストーブ等の燃焼器具に因る火災の大半は取扱いの不注意によるものであるから説明書、その他の資料によって家族全員が使用方法を熟知するよう努めること。
 - (ロ) 使用する場所が適当であること
 - (ハ) 点火の際に燃焼が安定するまでよく注意すること。
 - (ニ) 使用後はつまみやハンドルを完全にまわして消火を確かめること
 - (ホ) 器具はいつも清潔に保つこと。
 - (ヘ) 燃焼中の給油は厳に慎むこと
 - (ト) 子供の火遊びに対する注意
 - (チ) マッチ、ライター等は幼児の手のとどかない場所に保管し、その他可燃物は整頓しておくこと。
 - (リ) 子供だけのたき火をさせないようにする。
- ③ たばこの吸からの適正な処理
 - (イ) よく消してから捨てる習慣をつけること。
 - (ロ) 火のついたたばこを机、本箱、テーブルの上などに置いたまま他の場所へ行かないようにすること
 - (ハ) 寝たばこは自粛すること。
 - (ニ) たき火等の取扱いに対する注意
 - (ホ) 燃えやすいもの、引火性のあるもののある付近では、たき火やごみ焼き、喫煙等火気を使用する行

- ⑤ 強風下の火の取扱いの制限
 - (ロ) たき火中はそばに十分な水を用意し必ず監視しておこなうこと。
 - (イ) 強風下の火の取扱いの制限
- 外でたき火や裸火を絶対に使用しないこと。
- 次号に続く 和泉村消防団



(写真) 大木も一瞬灰の山火事

人のうごき

昭和四十一年八月一日現在

| | |
|-----|---------|
| 出生 | 11人 |
| 死亡 | 3人 |
| 転入 | 58人 |
| 転出 | 89人 |
| 総人口 | 三、八九三人 |
| 男 | 二、〇五五人 |
| 女 | 一、八三八人 |
| 世帯数 | 一、一九七世帯 |

出生(七月份)
大谷 池尾小百合 吉男二男

| | | | | | |
|----------------------------|-------------------------|--------------------|--------------------|---------------------|---------------------|
| 伊勢 上田 和範 米蔵長男 | 朝日 山本 佳美 周一二女 | 朝日 新屋 洋子 則男三女 | 鹿島 田村 和徳 定徳長男 | 中竜 安野はるみ 俊一長女 | 鹿島 楠田 昌博 宏 長男 |
| 大野市富島 貝皿 玉木恵美子 菊地 啓一 | 中竜 織田 清子 原 進 | 愛知県海部郡美和町 荷暮 嶋内 智子 | 愛知県海部郡佐織町 三面 須甲ゆき子 | 名古屋市中村区日置通り山下 八木 清勝 | 名古屋市中村区日置通り山下 須甲ゆき子 |
| 静岡県引佐郡三ヶ日町 下半原 林 富美枝 松井 昭次 | 岐阜市加納清水町 久沢 森寺 敬子 尾崎 利男 | 鹿島 川瀬 幸子 鹿島 西田 国和 | 朝日 宮原みつ枝 古川 信 | 角野前坂 猿谷ふみ子 野田 博 | 鹿島 森住 幸徳 北野 武夫 |
| 朝日 伊藤 充代 古市 三治 | 持穴 阿部 りつ 水口みちよ | 佐藤 笠原 重美 石田 住義 | 佐藤 鈴木兼治郎 関時彦 | 飛鳥 鈴木兼治郎 関時彦 | 中竜 鳥谷部英喜 |

本報八月一日発行一人のうごき一婚
姻欄中の誤りを次のとおり訂正します
誤(八月号)
●三重県四日市市中野 綿 宏子
下大納 山内 守人

正

●三重県四日市市中野 綿 宏子
下大納 山内 是人

学校放送

朝日小学校長 榎 幹雄

みんなで
こんな子に

七月二十三日、二十四日のへき地複式研究大会は、村民の皆さまの絶大なご協力によりまして、大成功のうちに終ることができ、県下各地の先生方も村を挙げてのご歓迎に心から感謝をしておられました。ここに謹んでお礼を申し上げます。

さて二期期の学校教育において次のように考えていますので、よろしくご援助ねがいたいと思います。

① 子どもの生活内容を充実させる。学校でも家庭でも目的のない時間の空費をなくして、勉強、仕事、遊びときちんとした計画で暮らせる。今何をしているか、その内容はどんなものか、どの程度の完成をしたかをいつも考えながらむだをはぶくように生活させる。

② 自分の行動に責任を持ち、親や先生に何でも話せる子に育てる。こっそり何かをやっていたり、自分の考えていることを全く話さないくらい子をなくして堂々と胸を張って自分を

を見せられる子、こう考える、こう思うとはっきり自分の考え方を話せる子に育て、その中から正しいもの美しいものへの芽を伸ばしていくようにする。

③ 自分をはっきり認識して前進させる。

徹底して何かをやってみなければそれぞれの可能性はわからない。一つことに打ちこんでやり抜いてみるような何かを持つようにさせる。絵をかく、字をかく、ソロバンをやる組立工作をやる、走る、投げる、何でもやってみようとする。ことに全力を注いでみる。転々と仕事をかえていく生活の中からは何も生まれてこない。徹底してやることによって自分がわかり、仕事を進める方法が見えられ興味と自信がわいてくる。

以上の三つを二期期は子どもと共に考え実行していきたいと考えています。勉強、勉強とかり立てる前にそれを十分消化していくだけの素地づくりが大切であります。家庭、学校、社会の一体の中でこそ健全な子どもが育っていきます。よろしくご協力下さるようお願いいたします。

九月の歴史

- 一日 大正一二年(一九二三) 関東大震災おこる 被災者一六〇万四千人
- 二日 天保一二年(一八四一) 明治の政治家 伊藤博文生
- 八日 一八六八年慶応四年を明治元年と改め一世一元の制を定めた
- 二日 明治一〇年(一八七七) 西郷隆盛らが、鹿児島市城山で自刃 西南戦争終る。

○ 始有る者は必ず終りあり

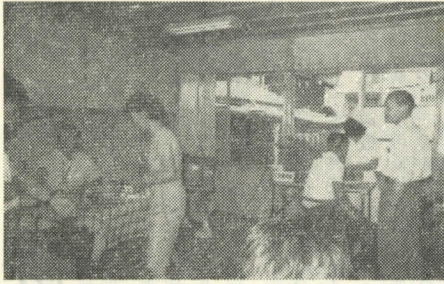
輸血に備えて

献血車来村

八月八日、九日の両日、福井県赤十字血液センターの献血車(愛称いぶき号)が本村を訪れ、献血受付をいたしました。八日は役場前及び電発事務所前で六六名、九日はダム工事現場の鹿島建設事務所で三八名、合計一〇四名の献血がありました。

献血は健康な人が二〇〇CCづつの供血を無償です。そして自分や家族等が輸血をしなければならぬときに「きれいな血液」を優先的に血液センターから還元してもらおうという愛の血液助け合いであります。

従来は善意の血液助け合いは極めて少なく、血液を売る大都市の特種な人達に依存して輸血のための血液を準備していたのです。しかしこの売血はいろいろな弊害が起つてきて特に輸血を受けた人が一時命は助かっても後で血



(写真) 「きれいな血液」検査風景

清肝炎という恐ろしいたちの悪い病気が出て来て肝硬変を起して死んだり、或いは病弱者になってしまったりします。また売血は生命のある血液を売るのでから人身売買です。文化国家に人身売買を認めておくこともできません。それで一昨年からこの献血運動が強くさげられてきたのであります。日本中どの道府県にも血液センターがつくられ、献血車が皆さんの献血を受けに走り廻って、恐ろしい売血をなくするために「県民の輸血は、県民の献血でまかなう」よう努力を続けています。

福井県内の病院や診療所では輸血のために一年間に血液が三〇〇〇立位必要であるといわれます。これだけの血液を出し合うには一人二〇〇CCづつ一五、〇〇〇人の献血が必要です。昨年は県赤十字血液センターの献血は六、一二人でした。必要量の四一％です。今年四月以後は毎月八〇〇〇九〇〇人位づつ献血があります。この分ですと年間一、〇〇〇人位になりますから八四％が献血ということになります。残る一六％を売血にたよることになります。献血一〇〇％ももう少しのところです。益々献血運動を推進したいものであります。

村民の皆さま、あなた方の近くの方が輸血のときには売血の輸血をしないように話してあげてください。そしてあなた方の献血手帳で輸血の援助をしてあげてください。いづれまたその中に献

血車が巡回してきたら、まだの人達の献血を誘ってあげてください。



(写真) 献血車「いぶき号」



ゆかたと肌着

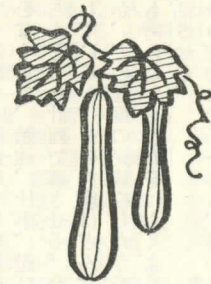
湯上りでゆかたにくつろいでそよ風にあたりながら冷えたビールで一杯やる時は一日の疲れを忘れれます。

洋服の時代であってもゆかたは日本人の夏の生活からは欠かせない存在です。昔は湯かたびらと称し麻地で作ったもので、天皇が湯あみをする時に用いたといいますが、今では湯上りだけでなくふだんのくつろぎ用から外出用にも愛用されます。糊のきいたゆかたは肌ざわりのよいことはもちろん、袖口や襟、すその開口部が広く衣服の換気が良好ですが、汚れたり糊がきかなくなると身体に密着して暑苦しくなります。

○ 県民の輸血は県民の献血で

家では素肌に着てさらっとした感触を楽しむのもよいけれど、外出の時はアンダーシャツにステテコ位はつけるようにしたいもの。

部落だより



川合区

お盆とか、お祭になると、故郷の味をかみしめに帰った幼なじみに偶然出くわし、お互の無事を祝い、在りし日の思い出に話は尽きぬーこれもお盆の楽しみの一つである。

今年も思いがけずT氏に巡り逢い、久しぶりの帰省である彼のふるさと観を交えながらの尽きぬ話の中には、いつもこの地に住む我々には気付かぬ観察のするどさが伺えて、私もほんとうにそうだなアと深く思い当ることが数多くあった。彼は語る。

家では素肌に着てさらっとした感触を楽しむのもよいけれど、外出の時はアンダーシャツにステテコ位はつけるようにしたいもの。

ない。更に取り、河内守信仰の白山観音社堂に心からの祈りを捧げ、遠く御所ヶ平、貝血部落を見渡ながら、男池女池を見るときに水がある。先のお安が不浄の物を洗ったので見る見ると水が引いたと聞いた池である。石を落せばいつでも音を立てて落ちてゆくという高野地獄の立穴を探したが見当らなかつた。この辺りはシャクナゲが生繁り昔の姿を止めている。こんな伝説を思い出しながら白山参道を下り、小計尾(菊花計石)を調べながら上の宮(いざなぎの命を祭る)に参拝し、沼の口・七人塚の刑場をたねんに見て廻った。最後は祖先のお墓に参り、故郷の変ほうに胸をいたため、うさぎおいしあ山、小ぶな釣りしこの川、の歌のまままでなかつたことを残念に思った。

と、ここに住む者の味えないふるさとのなつかしみを語った。

九月の解説

九月のことを和名では、長月といいますが。旧暦の九月は太陽暦に換算すると十一月ごろに当たり、夜が長くなる月であるところから、この呼び名があるといわれています。そのほか、玄月、授衣、朽月などの異名もあります。

あとがき

「いづみ」も遂に満一〇〇号となりました。ここまでに育てていただいた村の方々に厚く御礼申し上げます。先月号で企画しましたが、これについて編集針を改めましたが、これについて編集部よりのお願いに全員御協力いただきました賜ものでここに一同謹んで感謝しています。今後の御支援もよろしく。